

(様式2)

平成 21 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590100424		
法人名	社会福祉法人 愛宕福祉会		
事業所名	グループホーム なかのくち		
所在地	新潟市西蒲区福島311番地1		
自己評価作成日	平成21年10月30日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.n.kouhyou.jp/kaigosip/Top.do">http://www.n.kouhyou.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3号		
訪問調査日	平成21年12月21日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者のできる力や能力を発揮できるように声掛け、働きかけ、見守り等を行い、共同生活に張りや生きがいを持っていただけるように支援に努めています。  
ご利用者との会話を大切に、寄り添うケアに努めている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは家庭的な造りであり、どの空間も、柔らかく温かみのある色合いで、落ち着いた雰囲気である。日中は、玄関・廊下ともに施錠せず、自由に出入りできるようにし、職員の見守りにより安全を確保している。  
センター方式のアセスメントを活用して、利用者一人ひとりの生活歴やできることなどを把握し、個々のペースに寄り添いながら、見守りや声かけなどにより自立した生活を送れるよう支援している。衣類や寝具の片付け、居室のトイレ掃除を一緒に行うほか、食事の一連の作業も利用者と職員が一緒に行い、楽しんでいる。畑から収穫した野菜を利用して漬物を漬けたり、差し入れにももらった大根を干すなど、利用者はこれまでの習慣や智恵を活かした活動も行っている。職員もそれぞれが得意とする分野を活かし、おやつ作りや手芸、民謡などの楽しみごとを利用者に提供している。調査当日も利用者一人ひとりが笑顔で楽しそうに過ごしている様子が伺え、「楽しい」「食事はおいしい」などの言葉が何度も聞かれた。職員からも「仕事が楽しくて仕方ない」との声が聞かれた。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は職員全員で取り組み作成した。「1人ひとりの想いを大切に共に笑顔で暮らします」職員がわかりやすく、覚えていきやすい理念を作った。	職員全員で「こんなグループホームにしたい」との思いを込めて理念をつくり、日々の実践の中で大切にしている。理念の実現のための基本方針も掲げており、その中で、「地域の一員として暮らす」ことを明記している。広報誌を通じて、地域にも理念を伝えている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加していない。地域の方と接点を持てるように、お米は農協から購入している。必要に応じて近隣のお店で購入している。近隣のボランティアの方から気軽の遊びに来て頂いています。	地域の方から野菜の差し入れや、ボランティアによる畑作業・草取りの支援は実施されている。しかし、ホームが地域に出向いていく機会は少なく、その方法に試行錯誤している中にある。	集落から少し離れた場所にあり、地域住民の方と挨拶を交わすなど日常的に関わる機会もほとんどないが、地域の理解を深め、地域の一員としての交流ができるよう、アイデアを出し合いながら取り組んでいくことを期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中之口コミュニティーフェスティバルに、グループホームを紹介するパネルの展示。グループホームの広報誌の発行		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方から出された意見を参考に、広報誌の内容に生かす。今後家族との信頼関係を強めていくためには、どのような働きかけや活動が必要なのか参考になった。	運営推進会議では、主にホームからの行事報告や利用者の状況報告が行われるほか、運営推進会議の持ち方や地域に出向く方法などを課題に話し合いが行われている。広報紙は、メンバーからの意見も参考に作成している。しかし、会議が事業所からの報告に終始することもある。	より質の高いサービスの提供と、利用者が地域住民として暮らして行くための支援について意見が得られるよう、会議内容や進め方の工夫が望まれる。また、メンバーによる見学会や食事会なども予定しているとのことなので、その機会を有効に活用することを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは緊密に連絡は取っていない。日頃から地域包括支援センターの職員から助言を得ている。サービス向上のため積極的に信頼関係を築けるように努めていきたい。	実地指導や各種届出の際には市の担当者と面接する機会はあるが、日常的に行き来する機会はない。地区の地域ケア会議等もなく、事業所の取り組み状況や困っていることなどを話し合い、協力を得られる関係性は構築されていない。	利用者が地域の一員として生活するには、地域の協力や、行政とも連携した取り組みが重要である。ホームのサービスや地域全体の認知症ケアの向上のためにも、ホームの実情を伝える機会を持ち、協働関係の構築に向けて取り組むことが期待される。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関・廊下・窓など施錠を含めて身体拘束を行っていない。今後は介護指基準における禁止対象となる行為について勉強していく必要がある。	玄関のほか、2か所の出入り口も施錠しておらず、利用者は自由に畑に行ったり、デッキに出入りしている。身体拘束については、職員は拘束にあたる行為を大まかには理解しているが、関連法等の学習の機会はなく、正しい理解を持つための取り組みは十分ではない。	拘束のないケアは実践されているが、どのようなことが拘束にあたるのか、ということを全職員が正しく理解する機会を持ち、日常の業務の振り返りを行うなど、より具体的な取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の身体拘束虐待防止委員会内で勉強会を開いて学んでいる。学んできた内容を他の職員に伝えているが、まだまだ、話し合いや勉強会の機会が十分にとれていない。	管理者や職員は、隣接する同法人の特別養護老人ホームで開催される研修に参加し、高齢者虐待防止関連法について学んでいる。参加した職員は会議等で他の職員に伝達研修を行い、周知を図っている。また、メディアで放送された事例などを題材にした話し合いも行っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に対して、日常生活支援事業や成年後見制度についてまだ勉強会を開いたことはない。入居されていたご利用者の必要に応じて関係者との話し合いは行った。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ前に事前に自宅訪問やグループホームに来て頂き、疑問点や不安感のないように説明している。また、いつでも疑問に思ったことがあれば、相談していただけるように説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族から意見要望等があれば職員間で共有するように努めている。まだまだ、運営たいして意見等言っていただける関係性を築く必要がある。	面会時や電話での報告時に、家族から意見や要望を引き出せるよう働きかけているが、意見等が得られるには至っていない。都合によりなかなか面会に来られない家族も多く、どのように意見を伺う機会を確保すれば良いのか検討している段階である。	平成21年9月の敬老会行事に家族の参加があり、家族同士で思いを共有できる機会となった。今後も家族が参加できる行事を立案し、家族同士、あるいは職員との会話の機会を設けて、話しやすい関係づくりに取り組むことを期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議以外にも疑問点や意見があれば、申し送りノートやメールを活用して意見交換に努めている。	日常的な環境整備に関する提案や、利用者へのケアのあり方についてのアイデア等は、毎日の申し送り時にその都度話合っている。また、月に1回の検討会議でも活発な意見交換を行い、内容に応じては運営者に提案し、職員の意見が反映されるよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度など就業規則に規定されている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内において職員の段階や職種に応じて、内部研修、外部研修を実施している。また、職員が働きながら勉強できる機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現時点では行っていない。今後は交流する機会を設けていきたい。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族から相談があった時から、出来るだけご本人の困っていることや要望等に耳を傾けている。入居までに何度も遊びに来て頂き、雰囲気を感じて頂きながら不安の軽減に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に遊びに来て頂き、ご家族の困っている事、要望、不安に思っていることを確認している。また、ご本人のいるところでは話しにくい内容もできる限り、お話を聞くように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話での相談があったときから、ご家族の必要とされているサービスとご利用者の様子を確認してから、他のサービスで対応できないか検討して頂けるように提案している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご利用者一人ひとりの想いを大切に努めている。ご利用者の出来る力を引き出すばかりではなく、寄り添う事を大切な時間としてご利用者から学ばせて頂くことも多くあります。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居される際に、ご家族の協力が必要なことを説明している。ご家族が精神的支えであることを理解して頂き、家族との絆を大切にしています。面会時に日常の出来事など伝えて、喜びや悲しみ、苦しみなど共有できるような関係性ができるように働きかけている。	利用者の家族への思いやホームでの暮らしぶりを細やかに伝えたり、受診時の情報の共有も図りながら、本人と一緒に支えていく家族との関係づくりに取り組んでいる。また、家族の来訪時は、本人とゆっくり過ごせるように配慮している。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人が訪れた際は、ゆっくりと過ごして頂けるように配慮している。今まで築きしてきた関係性が途切れないように、行きたい場所や友人宅に青日に行けるように努めている。	馴染みの喫茶店や床屋に出かけたり、近所の商店に買い物に行くなど、これまでの関係が継続できるように支援している。また、友人が隣接するデイサービスを利用する時は会いに出かけたり、友人にも利用者の居室を自由に訪問してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を大切に、気持よく楽しく生活ができるように、職員が必要に応じて橋渡しの役割を行っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了された方でも、必要に応じて相談に応じている。必要なサービスについても、各関係者と連絡を取って情報を共有している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話の中からの要望や意向をくみ取り、ご家族にも話を伺いながら、把握に努めている。経過記録や申し送りのノートに記入して活用している。	利用者一人ひとりに寄り添いながら、どのように暮らしたいのか、何をしたいのかということを引き出すとともに、アセスメントシートに職員の気づきも書き込み、全職員で共有を図っている。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に聞いた話や事前面接で確認したことを、24時間シートに記入して把握に努めている。	センター方式のアセスメント様式を活用して、入居前の事前訪問時に、家族・本人にこれまでの暮らしや習慣を確認している。入居後も日常的な会話の中から生活歴を引き出したり、訪ねてくれる友人やこれまで利用したサービス事業所からの情報を得て把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録や事前の情報を元に1日の過ごし方や現状の把握に努めている。また、日々の経過記録から状態の変化や様子等を職員間で共有している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向をもとに、職員間で意見を出し合い、ケアプラン作成に努めている。	入居時のアセスメントや本人・家族からの要望、職員からの意見をふまえて、計画作成担当者が介護計画の原案を作成し、再度職員に提示して、完成させている。月1回の職員会議で計画について検討を行い、新たな気づきや課題・アイデアを出し合い、3ヶ月ごとに見直している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果・気づきや工夫など、経過記録に記入して情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向をもとに、困っていることや希望を職員間で話し合い、柔軟に取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の商店や郵便局、お風呂屋さん・喫茶店など希望に応じて活用している。安全で豊かな暮らしを楽しめるように支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望されている方は継続して受診していただいている。緊急時にも受診できるように、家族の意向を踏まえながら、協力医から見ただけのように対応している。	入居時に希望のかかりつけ医を確認し、継続受診できるように支援している。緊急時以外は家族に付添いを依頼しており、医師とは、文書等でホームでの様子を伝えて指示を得るなど、連携を図っている。ホームの協力医もあり、月1回の往診のほか、夜間も相談できる体制にある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は不在		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族の意向を踏まえながら、病院との情報交換を図り、出来るだけ早期に退院して生活ができるよ環境を整える支援を行っている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と話し合い、かかりつけ医に相談や協力を得ながら、チームとして支援していけるように取り組んでいる。	管理者・職員ともに、ホームは利用者にとっての「もうひとつの家」でありたいとの思いを持ち、本人・家族が望めばホームでの看取りを行う意向である。指針を明文化しており、契約時には、ホームができること・できないことを説明し、理解を得ている。主治医とも話し合い、家族・主治医・ホームが協働して支援する体制が取られている。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救命救急講習を受けている。また、園内研修に参加している。	消防署職員による救急救命講習や、隣接する特別養護老人ホーム主催の研修会に参加している。協力医への連絡体制やマニュアルも整備されているが、定期的な訓練を行うには至っておらず、急変や事故発生時の対応について不安を抱えている職員もいる。	全ての職員が、事故や急変時に備えて実践力を身につけられるよう、ホームで実際に起こりうる状況を想定した実地訓練等を、定期的・継続的に実施することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接する中之口愛宕の園と協力しながら行っていく。 定期的に避難訓練(ご利用者参加)の実施している。	年2回防災訓練を実施し、1回は夜間を想定して行っている。訓練は隣接する特別養護老人ホームと合同で、利用者も参加して実施している。ホーム独自のマニュアルも整備されており、職員に周知されている。地域に対しては、運営推進会議の機会に災害時の協力を依頼している。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	堅苦しくならないように方言など取り入れながらも、尊厳や誇りを傷つけないように、必要に応じて敬語をつかって配慮している。また、お部屋に入室する際は、ノックをしてから入るなどプライバシーに気をつけている。職員間でも注意している。	名前は利用者の希望の呼び方で呼ぶなど親しみのある対応を行っているが、常に年長者として敬意を払い、プライバシーを損ねるような声かけは行っていない。一人ひとりの想いを大切にしながら、さりげないケアを実践している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や着替えなど出来る限りご利用者の意向を取り入れながら、支援している。また、わかりやすい言葉で話しかけるように注意して、表情など変化を確認している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の希望やペースに合わせて、どのように過ごしたいのか確認しながら過ごしていただいている。天気のいい日は外出したいと要望があれば、希望に沿って支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望される理容室にいたり、昔を思い出され、化粧をされてから外出されたり、夏祭りでは、希望された方には、浴衣を着て頂き祭に参加して頂いた。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の食事づくりで野菜を切る手伝っていたり、季節ごとに笹団子やお稲荷さんづくりを職員が教えて頂きながら行っている。一人ひとり得意とする所を職員と一緒にしている。	献立や必要な食材は利用者と一緒に考えている。買い物も一緒に行き、その場で食べたい物を見つけた時は献立を変更している。台所は家庭的な造りで、利用者も一緒に調理や配膳を行い、和気あいあいとした雰囲気の中で食事をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	経過記録に食事摂取量を記入して、ご利用者一人ひとりに応じた形態や量を提供している。 食事の栄養バランスや水分摂取量を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用者一人ひとりの状態に応じて、声掛けやお手伝いを行っている。義歯も週1回の洗浄剤を使っての消毒やコップやブラシも消毒を行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者一人ひとりの状態に応じて声掛けや見守り、付添など行っている。経過記録に排泄記録を記入しており、自立に向けた声掛けや物品の準備に努めている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切な排泄用品を選択しながら、時間誘導や声かけを行い、自立に向けた支援を行っている。居室にトイレが設置してあるので、プライバシーに配慮した排泄支援ができています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日10時15時に水分補給をおこない、1日の食事の中に乳製品を必ず1回は摂取して頂いている。それでも排便が困難な方には、かかりつけ医に相談して薬を変更して対応している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は特に決めておらず、ご利用者の希望や状態に応じて入浴して頂いている。だいたい、2日おきに入浴できるように配慮している。	これまでの生活習慣や希望により、入浴を実施している。現在、毎日の入浴や夜間入浴の希望者はいないが、今後も希望に添って対応していく体制にある。また、時には、ゆず湯など季節感のある入浴を楽しんでもらっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者それぞれのご希望される場所(ご自分の部屋やリビング)で休んで頂いている。リネンは週1回交換している。また、ご利用者の体調や状態に応じて、掛物調節やお部屋の温度管理に気をつけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用や食べ合わせ等に注意している。処方箋はファイルにとじて、いつでも確認できるようにしている。服薬内容が変更になった時は、口頭と記録に記入して確認できるようにしている。チェック表で毎食確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の一人ひとりの能力や得意なこと、興味のあるものなど、過去の生活歴やお話から見つけ出し、役割や張り合いが持てるようにしていく。散歩などに出かけて気分転換等支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>日常的な散歩や買い物はご利用者の状態に応じて、実施している。ただし、外出される方が決まってきたため、他の方も出かけられるようにしていかなければならない。普段出かけられない所は、ご利用者の希望にそって、ご家族に相談して出かけられるように支援している。</p>	<p>天気の良い日はホームの周りを散歩したり、お茶やお菓子を持って近くの公園で日光浴を楽しむこともある。近隣の喫茶店や、デイサービスに友人に会いに出かける利用者もいる。食料品の買い物には希望者と職員とで出かけている。しかし、職員体制から、一人ひとりの希望にそった外出支援は多くは行えず、外出する利用者も特定の方になりがちであり、事業所としてはさらなる工夫が必要と認識している。</p>	<p>外出は、利用者その人のこれまでの暮らしの継続から重要なものであり、また、その人をより良く知る機会ともなる。あまり外出を望まない利用者もおられるだろうが、本人に寄り添いながらさらなる想いや意向の引き出しを行ったり、家族やボランティアの協力を得て、一人ひとりの希望が実現するよう、よりいっそうの取り組みを期待したい。</p>
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族の希望によって、ご利用者の応力に応じて、お金を持っている方もいますが、事業所で管理押して必要に応じて使えるように支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話や手紙があった場合は、ご利用者に支援している。ご自分からやりとりを希望される方はいない。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間に不快になるような物は置かないように配慮している。季節の草花を飾り、居心地のいいように配慮している。定期的に掃除しているため、清潔な空間は保たれている。</p>	<p>ホームが利用者にとって「もう一つの家」となることを大切に、環境づくりにも配慮している。共有空間には季節感や生活感を重視した飾り付けが施され、全体に落ち着いた雰囲気がある。食堂や居間は明るく、ゆったりと過ごせるよう家具を配置している。コタツのコーナーには洗濯物を干したり、雑誌を読めるようにし、自宅のように安心して過ごせる空間づくりをしている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>たたみコーナー、リビング、ソファーとご利用者それぞれのお好きな場所で過ごして頂いている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から使い慣れたものを持ってきていただき、居心地のいい空間になるように、ご家族と相談しながら支援している。 見慣れた持ち物を取り入れることで、くつろげる空間となっている。	利用者一人ひとりの思いや個性を大事にして、利用者と家族、職員と一緒に居心地の良い居室環境づくりをしている。使い慣れたタンスや写真、思い出の品などが自宅から持ち込まれており、ゆっくり過ごせる居室になっている。各居室にはトイレと洗面台が設置されており、プライバシーにも配慮した環境である。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者一人ひとりの状態に応じて、付添見守りを行っている。 シルバーカーや歩行器で移動するときに、足もとに障害物がないように配慮している。		